

〔論説〕

## 日露戦争はなぜ忘れられたか、なぜ、記憶されるべきか

ベン・アミー・シロニー（倫理研究所客員教授）

### 時の一大事

2014年の夏に、世界は第一次世界大戦の勃発から100年の記念を迎えるが、2014年2月の日露戦争勃発110年も記念されるべきである。この戦争は20世紀において最初の大戦争であった。日露戦争（1904～5）は、わずか一年半の出来事であったが、20世紀に重大な影響を及ぼした。これは後に続く二つの世界大戦や、20世紀の大革命にも道を切り開いたのである。

通信手段の進歩により、日露戦争は過去で最も報道された戦争となり、様々な言語のニュース記事や解説、分析、論文、写真集、映画や書籍が溢れた。同時代の人間にとって、この戦争は、ドラマティックで画期的で、忘れられないものであり、代々語り継がれ、記憶されるものであるように思われた。

当時、“*The Japan-Russia War*”という一冊の本が、1905年にフィラデルフィアで出版されたが、その序文に次の言葉があった。「日露戦争は、世界がかつて経験した事のない最大の軍事闘争として歴史に残る」。旅順攻囲戦について、著者のSydney Taylerは次のように主張している。「これは記録に残る全ての軍事的功績の中で比類無きものである」。彼は19世紀の英国首相について次のように証言する。「ビーコンズフィールド卿（Benjamin Disraeli）はかつて、歴史にはただ二つの出来事のみが存在し、それはトロイアの包囲とフランス革命であると述べた。日露戦争が世界の発展における第三の至上要因として記録されるべき事には、単なる可能性以上のものがあるようだ」。ところが、日露戦争は程なく忘れられてしまう事となった。第1次世界大戦が日露戦争を、後の第2次世界大戦がこれらの戦争の両方を、その影で覆い隠してしまったのである。20世紀の半ばには、この戦争に何らかの関わりを持った全ての国が、これを忘れようと願っていた。